

豊明希望チャペル礼拝

2024/11/10

「命を捨てるべきです」

I ヨハネ 3 : 13~16

ヨハネの手紙第一から教えられています。3章に入りました。こういう出だしで3章は始まります。

「3:1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、御父がどんなにすばらしい愛を与えてくださったかを、考えなさい。・・・」

キリストの愛、神の愛を黙想しなさいというのです。想像力をたくましくして、どうか、神の愛がどういうものであるか、特にあなたにとってどういうものであるかを良く考えなさい、黙想しなさいと言うのです。

ヨハネは、前回のところで、「3:11 互いに愛し合うべきであること、それが、あなたがたが初めから聞いている使信です。」と言い、私が繰り返し伝えたいと思っているのは、具体的に兄弟を、また隣人を愛することだと、このように強調しております。今日の箇所を中心のところを読みます。

「3:16 キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」

キリストの愛にならって、兄弟を愛せよというのが、3章全体の課題であり、特に今日の箇所で強調されている点です。

愛について考えるとき、理屈ではわかるのですが、それを実践するとなると、私の限界、私の愛の無さに気づき、さらには、愛する事の具体的な難しさに直面することになります。「キリストの如く愛する」とはどういうことでしょうか。自分の個人的な例をあげてもいいのですが・・・この数週間で深く考えさせられたことがあります。

私は、先月の終わり(10/28~29)に、JECAの牧師会があつて、聖書の一箇所を与えられて、そこを黙想する時を持ちました。それで、先週は、同じくJECの成人キャンプがあつて、ある聖句が開かれましたが、それは、ちょうど同じ箇所の続きの箇所でした。イエス様が、ガリラヤ湖の向こう岸のゲラサ人の地という場所に、舟で弟子達と渡られた場面でした。成人キャンプでは、三重で生まれて牧師をされていた、聖書宣教会校長の赤坂先生からで、ガリラヤ湖で嵐にあわれた場面でした(↓ジーザスポート。



当時の舟が 1986 年にガリラヤ湖で発見された。全長 8 メートルほど)。その前の週は、カンバーランド長老教会で長く牧会されていた松本先生により、そのゲラサ人の地で、墓場で鎖につながれた、あばれる男を癒し救う場面でした。いわば、イエス様は、嵐に遭いながらも、異邦人の地に行かれたのは、そのひとりの狂った男を癒すためだったのです。

ここにも、キリストの愛がどのようなものかが語られています。



ルカの福音書「8:27 イエスが陸に上がられると、その町の者で、悪霊につかわれている男がイエスを迎えた。彼は長い間、服を身に着けず、家に住まないで墓場に住んでいた。・・・イエスが汚れた霊に、この人から出て行くように命じられた・・・悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。・・・悪霊どもはその人から出て、豚に入った。すると豚の群れは崖を下って湖へなだれ込み、おぼれて死んだ。8:34 飼っていた人たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や里でこのことを伝えた。・・・8:37 ゲラサ周辺の人々はみな、イエスに、自分たちのところから出て行ってほしいと願った。・・・」

ここを黙想し、数人の牧師と考えていました。

ある牧師がこのように言いました。それは、ここで出てくる、病を癒され悪霊を追い出していただいて、多くの人たちにキリストの愛と力の素晴らしさを親族と地域の人々に伝えた、墓場の男の視点ではなくて、34節のある「(豚を)飼っていた人たち」の視点です。他の福音書では、湖になだれ込んだのは、2000頭程だとあります。一頭5万円と見積もれば、1億円、10万円と見積もれば2億円だと、その牧師は言いました。その損失を思うと、ゲラサの人たちが、イエス様に「出て行って欲しい」と言ったことが理解出来ると言いました。そして、私たちは、イエス様の愛と伝道について考えていました。彼は言いました。これがイエス様の伝道ですと。ひとりの、誰の役にも立たないと思われる狂った人間のところに万難を排して荒れる湖を渡っていかれ、そして、たど一億円の損失を出したとしても、彼の救いのために全力を尽くすと。そして、これこそ、私たち牧師が、ひとりの魂を愛し、伝道する覚悟だと。

しかし、しばらく牧師同士、考えていて、しかし、ゲラサの人たちの多くをつまづかせてしまったのではないかと、誰かが言いました。これは、伝道として成功だろうか？と。このことによって救いを逃した人たちがいないだろうか？と・・・

ここで、問題にされているのは、いわば、「愛する事のリスク(損害、あるいは、損害をうける可能性)」という課題です。

イエス様の愛と言う時、たとえば、こういうことだということです。リスクを恐れないで、ひとりの人のために全力をかける。イエス様は、その愛をこう言われたのではないのでしょうか。

ヨハネの福音書「15:13 人が自分の友のためにいのちを捨てること、これよりも大きな愛はだれも持っていません。」

ヨハネは、この手紙で、そのイエス様のお言葉を思い出し、イエス様の愛とは何かと、兄弟姉妹に問い、このように言いました。

それが今日の箇所です。

「3:16 キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」

兄弟のために命を捨てることだと。

もう少し、身近な例にしましょう。これも、私の話ではなく、聖書から考えましょう。

それは、たとえば、イエス様が、隣人を愛するとはこういう事だと教えられた、良きサマリヤ人の例です(↓「傷ついた旅人に救いの手を差し伸べる良きサマリヤ人」フランソワ＝レオン・シカール)。



「リスク」というとき、アメリカやカナダで施行されている「グッド・サマリタン法」という法律があります。急病人などへの救済行動が失敗しても罪に問われないという法律です。

しかし、この法律のない日本では、こんな例がありました。より正確にかたるために、その事件を詳しく言うところでは、「クリニックの前で人が倒れ、上気道閉塞を疑われる所見で挿管は不可能と判断された。救急車を手配して、転送のため近所の大学の救急救命センターに電話中、患者は吸気のまま呼吸が停止し呼びかけにも反応がなくなった。(首が腫れた状態で、喉仏の隆起もなく、気管切開が困難な状態であったが、一刻の猶予も許されないまま、) 緊急で気管切開を行い、気管切開自体は成功したが、血管を傷つけてしまい、出血多量で死亡した。その医師を待っていたのは、警察による業務上過失致死罪の容疑による取り調べであり、さらには、当夜、あれだけ「助けてください」とその医師にとりすがった患者の妻からの弁護士を介しての損害賠償請求の通知であった。」という例です。

「良きサマリヤ人」の例も、念が入っていて、イエス様は、リスクを十分考慮しながら、実に、相手の立場に立った愛の例を、丁寧にあげます(実際にあった話しかも知れない・・・)。

あるサマリヤ人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリーブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。そして、イエス様に隣人とは誰か、愛とは何かと問うた人たちに、この三人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。彼が言った、「その人に慈悲深い行いをした人です」。そこでイエスは言われた、「あなたも行って同じようにしなさい」。(ルカの福音書 10:30~37) と言われました。

イエス様は、一方、ここを通りかかり、この事態を目撃しながら、面倒に巻き込まれたくないと考えた祭司が、遠巻きに見てみないふりをしながら逃げてしまったと語ります。

彼らは、いうなれば、リスクを避けたのです。このことに関わっていたら、祭司としての日々の業務に差し支えると考えたようです。さらに思えば、触れる事さえ忌み嫌うサマリヤ人を助けたとなれば、仲間に何を言われるかわからない。そんなリスクを冒してまで関わりたくないと考えたのかも知れません。

イエス様は、隣人愛とは、この人のように、いわば、そのリスクを恐れず、その人の立場に立って、ひたすら尽くすことであると教えているように思います。

そして、イエス様の言葉に従えば、そのリスクとは、どこまでなのかと問われるなら、「あなたの命」あなたの命というリスクをかけても、助ける、それが、

キリストの愛だと言われるのです。

今朝、ヨハネの、「3:16 キリストは私たちのために、ご自分のいのちを捨ててくださいました。それによって私たちに愛が分かったのです。ですから、私たちも兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」という言葉をめぐるって考えてきたのです。

ヨハネは、あなたがたにとって、「3:14 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。3:15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。」と言い、クリスチャンにとって、愛さないという選択肢はないといいます。それは、クリスチャンにとって死を意味するというのです。

イエス様のように愛せない者は、死者と同じ、生きる価値がないと。

さて、一切、エキェスキューズすることなく、言い訳することなく、私たちは今日のところを見たのです。教えられたのです。

私は思うのです。ここで私達に命じられているのは、友のために命を捨てるべきだという時、キリストがどんなに貴方々を愛してくださるか、その愛がわかったのかという、愛を知りなさいという命令でもあるなあと言うことです。ローマ人への手紙に、「私達が罪人であったとき、キリストが私達のために死んで下さったことにより、神は私達に対するご自身の愛を明らかにしておられます。」(ローマ 5:8) とあります。

主よ、その愛に生かしてくださいと願う心の大切さです。

私たちは、今週、兄弟を愛する者でありたい。そして、隣人を愛する者でありたいと願います。たとえリスクをとっても、その愛をさしあげる考えと、黙想をもって愛せるようにと願い祈り、進むこの週でありたいと願うのです。